

17年 5月 23日

< マーケット・インディケータ >

< 日経平均 225 優位の展開続くか >

今週はマーケット・インディケータからみて反騰が期待できる局面です。先週も順位  
相関底値圏比率がボトム圏を指示、2週間連続の買い指示となりました。さらに、9週  
騰落レシオ、移動平均上位銘柄比率などが買い指示の水準に接近しています。

マーケットはこのところボックス圏内の動きを続けているため、ボトム圏指示のシグ  
ナルは出ても弱く、また指標が全部出揃わないうちに反騰となるケースが多くなって  
います。こうしたことから現時点の状況で反騰に入ってもおかしくありません。

ただ、テクニカルにみて気になるのは値幅でもう一段の調整があるか否か、13週移動  
平均乖離率や移動平均（下方高）乖離銘柄比率など値幅・ピッチを示す指標がまだボ  
トム圏に届いていないことです。もともと、日経平均 225 は 13 週移動平均線でみて▲  
4.0%の乖離、あと 3%程度の下げがあれば買い指示水準に到達です。

今週は「底値圏での分岐点」として重要な週となりそうです。

< ボトム圏指標の動向 >

東証第一部のマーケット・インディケータの動きです。

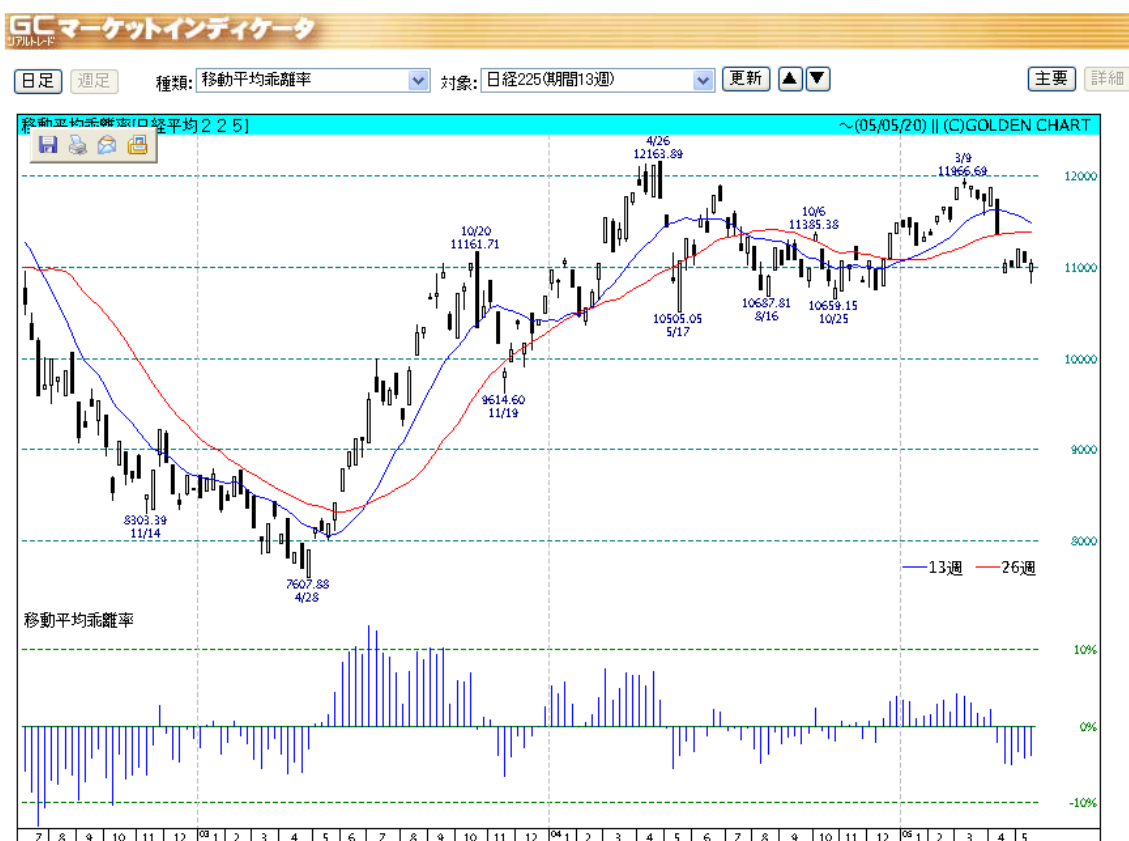
- ・ **日経平均 225・13 週移動平均乖離率**  
13 週移動平均線からの乖離率は▲4.0%。ボトム圏指示は▲7%超。
- ・ **騰落レシオ（9 週）**  
9 週騰落レシオは 68%。弱い買い指示。ボトム圏指示水準（60%）に  
あと少し。
- ・ **移動平均上位銘柄比率（13 週・26 週）**  
13 週移動平均上位銘柄比率は 22.8%でボトム圏支持水準まで 2.8 ポイント。  
26 週移動平均乖離率は 47.1%でこちらはまだ距離がある。
- ・ **移動平均下方乖離銘柄比率（13 週・15%、13 週・20%）**  
13 週移動平均下方乖離銘柄比率（13 週・15%）、（同 13 週・20%）は上昇  
相場とはいえ 5%以下の水準で買い指示にはほど遠い。
- ・ **順位相関底値圏銘柄比率**  
先週の 32.2%から少し低下し 30.3%。2 週連続して買い指示水準を維持。

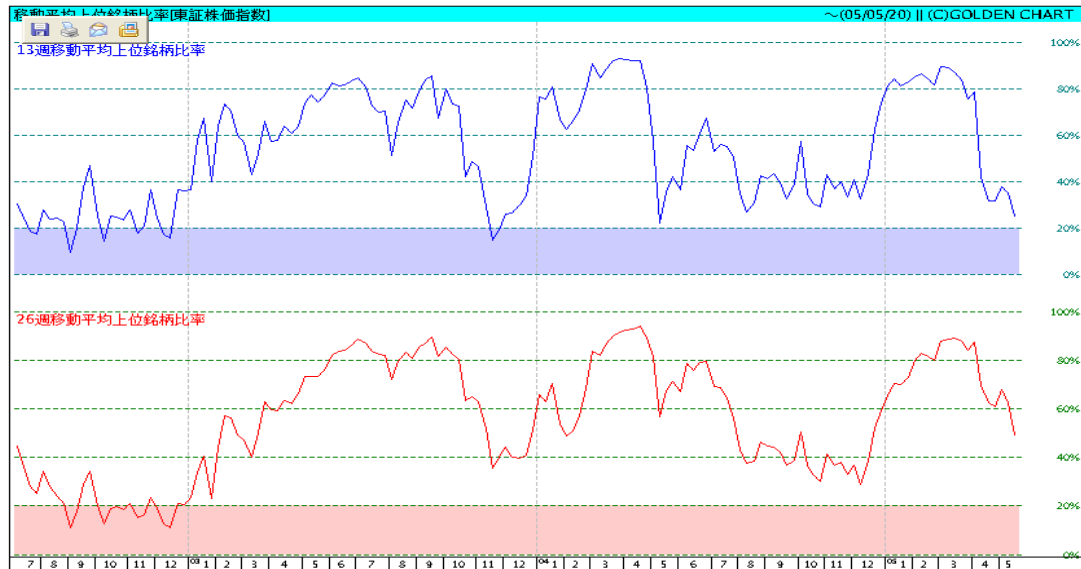
<ボトム圏の指標が揃ってきました。9 週順位相関底値圏銘柄比率が表すように「日柄」  
では十分ですが、移動平均乖離率など「値幅」があと一歩の状況で、ダメ押しがあるか  
どうかといったところ。また、信用買残が高水準なものも若干気にかかります>

< まず第一弾の買い、下落局面は買い下がり >

上記指標が示す通り、ここからはキャッシュポジションを引き下げて行きたいところ。現在のポートフォリオの状況にもよりますが、新しいファンドであれば30%程度は組み入れるところでしょうか。ここからの下げは買い下がりです。

組み入れ銘柄は、例えば①RCIなどでみて底値圏にある銘柄で高値から大きく値を下げた銘柄・②RCIでみて高値圏にある銘柄。加えて、今18年3期予想でのバリュエーションで①は減額修正であっても、大きく下げたことで買える株価水準に到達したと見られること、②は今18年3期予想がコンセンサスを上回り買い余地が大きいと見られることなどを条件に検索するのはいかがでしょうか。





©2004 ゴールデンチャート

